

§6 人格の同一性

＜Aさんがお金に困って包丁でBさんを刺して殺し、お金を奪いました。その後Aさんは捕まって裁判にかけられました。裁判官は、Aさんを有罪にしました。＞ この時、裁判官は何を前提しているでしょうか。前提の一つは、Aさんが包丁でBさんを殺したことが原因となって、Bさんが死んだという因果関係があるということです。次に、AさんがBさんを殺したという過去の出来事が実在することです。次に、Aさんの意志は自由であり、Aさんは自分の行為に責任があることです。そして、もう一つ的前提は、強盗殺人したAさんと裁判にかけられているAさんが同一人物であることです。

問い「強盗殺人したAさんと、裁判にかけられているAさんが同一人物であるとはどういうことでしょうか」

答え1：人格の同一性を構成するのは、身体の同一性だろう。

反論：物質的には同一ではありません。

身体の状態は似ているかもしれませんが、かなり変化しているかもしれません。

応答：それでも身体の変化の連続性が身体の同一性を保証するだろう。

反論：身体の変化の連続性を保証するのは何か？

答え2：人格の同一性を構成するのは、心の同一性だろう。

反論：性格は似ているかもしれませんが、銀行強盗した時のAさんの性格と似ている性格の人は他にもいるかもしれません。

反論：心的内容は同一ではない。

応答：心的内容の変化の連続性が心の同一性を保証するだろう。

反論：心的内容の変化の連続性を保証するのは何か？

答え3：人格の同一性を構成するのは、身体と心の結合体の同一性だろう。

しかしこれが同一であるとはどういうことだろうか。

身体や心の変化の連続性であろうか。

反論：もし身体や心の変化が連続的であるとしても、そのことを記憶していない人がいるとすると、その人は人格だといえないのではないか。

記憶が一日しか保持できない人がいて、朝目覚めるたびにそれまでの記憶を失っているとしよう。

彼女が10日前に銀行強盗したとして、我々は彼女を裁くことができるのだろうか。

答え4：人格の同一性を構成するのは、＜身体や心の変化の連続性＋その記憶＞、であろう。

反論：記憶は身体や心の変化の連続性を保証できない。

「時刻T2における人物P2が、それ以前の時刻T1における人物P1に起こった意識経験を覚えているとき、そしてそのときに限り、時刻T2における人物P2は時刻T1における人物P1と同一である。」(サールの『マインド』山本貴光・吉川浩満訳(朝日出版)の「第11章 自己」から引用したい。p. 365)

サールはこれが循環しているという。

「時刻T2におけるP2が時刻T1におけるP1に起こった出来事を本当に覚えているためには、単にその人がそれを覚えていると考えるのではなく、P2はP1と同一でなければならない。」しかし、P2とP1の同一性を言うために、記憶の連続性を主張しようとしているのだから、論点先取の循環になっている。(ちなみにエイヤー『哲学の中心問題』竹尾治一郎訳、法政大学出版局、p.183にも似た議論がある。)

これを次のように批判することも出来るだろう。

「時刻T2におけるP2が時刻T1におけるP1に起こった出来事を本当に覚えているためには、単にその人がそれを覚えていると信じるだけでなく、その信念が真でなければならない。」

しかし、記憶についての信念が真であることを、記憶によって記憶では保証することはできない。それができるのは、他者の記憶である。

答え5：人格の同一性を構成するのは、＜身体や心の変化の連続性＋それについての複数の人間の同意＞である。

人格の同一性が成り立つためには、身体や心の変化の連続性だけでなく、それについての知識が必要である。それについての知識が成り立つためには、それが私的な信念ではなく、公共性を持たなければならない。

■残された問題：「複製の問題」

「心が複製されたときに、どちらを人格とみなすのか、あるいは、人格の枝分かれを認めるのか」という問題

●「Ship of Theseus テセウスの船」Wikipediaより

プルタルコス以下のようなギリシャの伝説を挙げている。

「テセウスがアテネの若者と共にクレタ島から帰還した船がある。アテネの人々はこれを後々の時代にも保存していた。このため、朽ちた木材は徐々に新たな木材に置き換えられていき、やがて元の木材はすっかり無くなってしまった。

テセウスの船は哲学者らにとって恰好の議論的となった。すなわち、ある者はその船はもはや同じものとは言えないとし、別の者はまだ同じものだとして主張したのである。」

テセウスの船を作っている板を一枚とって、別の木の板と取り換えたとします。それでもそれはテセウスの船です。2枚の板を取り換えても、それはテセウスの船です。全ての板を取り換えた時はどうでしょうか。それでもそれはテセウスの船だということができるかもしれません。では、もとの船から取り外した板を使って、テセウスの船を作った時には、どちらがテセウスの船でしょうか。

これはソリテス・パラドクスに似ている。

●「ソリテス・パラドクス」wikipedia より

砂山のパラドクス（すなやまのパラドクス、[英: paradox of the heap](#)）は、[述語の曖昧性](#)から生じる[パラドクス](#)の一種である。ソリテス・パラドクス（Sorites paradox）とも呼ばれ、sorites は[ギリシア語](#)の $\sigma\omega\rho\acute{o}\varsigma$ (sōros、堆積物) の形容詞化した言葉である ($\sigma\omega\rho\acute{\iota}\tau\eta\varsigma$ (sōritēs))。簡単に言えば、[砂](#)の山があったとき、そこから数粒の砂を取り去っても砂山のままだが、そうやって粒を取り去っていったとき、最終的に一粒だけ残った状態でも「砂山」と言えるか、という問題である。砂山のパラドクスの起源は、一般に古代ギリシャの哲学者ミレトスの[エウブリデス](#)が作ったとされるハゲ頭のパラドクス（Paradox of the Bald Man）に帰せられる。

ハゲ頭のパラドクス [\[編集\]](#)

「髪の毛が一本もない人はハゲである」(前提1)

「ハゲの人に髪の毛を一本足してもハゲである」(前提2)

ここで前提1に前提2を繰り返し適用していく。そして次の結論を得る。

「よって全ての人はハゲである」(結論)

●人工知能

我々の意識内容すべてをコンピュータAに転送した時、生身の私とコンピュータAは、どちらが私でしょうか。このような場合には、コンピュータAと私は、転送の時点から二つの人格として存在し始めるのでしょうか。(分割した脳から、それぞれ脳を再生できるときには、同じ問題が生じる。)

心が複製されるときには、人格の枝分かれを想定するのが、よいように思われるが、その場合に次の問題に、どう答えたらよいのだろうか。

ミニレポート課題

「心が複製される前に、その人が強盗殺人していたとすると、裁判にかけられるべきはどちらの人格だろうか。それとも両方とも裁判にかけられるべきだろうか。」